

三芳町協働のまちづくりネットワークGroup
「みよしグリーンサポート隊」活動シート

No.103

- 1 日 時 令和2年1月19日(日曜日) 9:00~正午
- 2 活動場所 トラスト14号地(県有地) D地区
- 3 集合場所 役場運動グラウンド東(緑地公園前)
- 4 活動目的 落ち葉堆肥で良い畑土壌をつくる
- 5 活動内容 落ち葉掃き
(「正木体験農園落ち葉掃き会」との共催です)
- 6 作業レベル 初級
- 7 担当世話役 原
- 8 道 具 のぼり旗、ヘルメット、マスク、手袋、熊手、運搬用シート、救急箱
- 9 荒天対応 急な雨、又は強風の時、中断、中止とします
- 10 トイレ着替 芝生公園又は体育館トイレ

タイムスケジュール

- 8:30 受付
- 8:50 世話役・関係者打ち合わせ
- 9:00 集合
- 9:05 開会、出欠確認、作業説明ほか
ストレッチ
- 9:20 作業開始(適宜休憩)
- 11:30 作業終了・用具確認
- 11:40 ミーティング
- 12:00 解散

作業内容

- 落ち葉掃き(「正木体験農園落ち葉掃き会」との合同作業です、よろしくお願ひします)
- ・できるだけ小枝類が混じらないようにする
 - ・集めた落ち葉は、シートで集積場へ
 - ・適宜、休憩タイムをとり腰を伸ばして下さい

できるだけマスクを着用して下さい！
安物で壊れやすい熊手です、やさしく！
落ち葉シートを引きずって運ぶとすぐ破れます、大勢で持ち上げて運んで下さい！

かつては「農用林」であり、「経済林」だったが、今や「非農用林」、「非経済林」に

- 三芳町の平地林(ヤマ)は、開拓のときナラやクヌギを 植え、15~20年サイクルで伐採更新を繰り返して手入れしてきた人工林であった。
- ヤマは、畑作地帯にとって欠かせない堆肥の元となる落ち葉の供給と、昭和30年代後半に電気製品や家庭ガスなどが普及するまでは生活に必要な燃料源として薪の供給源であった。
- 薪づくりはヤマの所有者が自ら行うのではなく、山師や木切りと呼ばれた職業集団により行なわれていた。ヤマの所有者は木を販売することで貴重な現金収入を得ることが出来た。

○ 山師とは、薪として切り出せそうなヤマの持ち主と交渉して、ヤマの木を薪に仕上げ売り捌く職業であり、木切り(キキリ)とは、山師の取引したヤマに入って伐木に携わる技術職人であり この薪づくり作業は冬場の農閑期に行われた。

- 三芳付近において、山師は上富で三軒、北永井で二軒、藤久保で一軒、竹間沢で二軒が知られる。また所沢や新座、富士見からも山師がヤマの木を買いに三芳に出向いて来ていた。
- 以上は、「みよし歴史探訪」より抜粋

次回活動

- 日時** 令和2年3月15日(日)
午前9時~正午頃まで
場所 トラスト14号地(県有地)C・D地区
内容 集積した枝の運び出し
(2月の活動はお休みとします。)